



「東日本大震災に思う」

慈光照護のもと、門信徒の皆様にはますますご清祥にお念仏ご相続のことと慶賀に存じます。

このたびの大震災で、ご家族およびご親戚が被災されました皆様には衷心よりお見舞い申し上げます。西光寺の関東のご門徒もご無事と伺っております。

さて、このたびの大震災では、私たちがいったい何をよりどころにして生きていけばよいのか、あらためて考えられました。たいへんな思いをして手に入れた土地も、借金をして建てた家も、じっくり選んだ家具も、私たちの暮らしを豊かにしてくれる電化製品も、こつそり貯めておいたタンクス預金も、写真などの思い出も、そして家族さえも地震と津波で失ってしまわれた被災者の方々に、私たちがいつたいたいなができるのか。数日間テレビに釘付けになりながら、そんなことばかり考えていました。お釈迦様は『諸行無常』と教えてくださいましたが、普

段播るぎないものの代表ときえ思っていた大地でさえも、あてにならないものであると思ひ知らされました。この現実を見せつけられたとき、宗祖親鸞聖人の「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします」のお言葉が身に染みしました。私たちはこの一見豊かな現代社会の中で、当たり前のように豊かさを享受してきましたが、それらほみな『あてにならない』ものだったのでないでしょうか。私たちは、あてにならないもののために悩み苦しみ、他の人といがみ合つて生きている凡夫だったと知らされます。そして、本当にあてになるもの、私たちの生きる指針となるものはなにかと問われたとき、どんなことがあつても変わることはない、**阿弥陀如来**の『一切衆生を必ず救う』との**本願**こそが、私たちのよりどころにするものであつたと聞かせていただくのです。

原子力発電所の事故に関しても、『想定外』とか、『今後絶対』にこのような事故を起こさないよう云々』という表現が使われています。しかし、人間の作り出したものに絶対などありません。ご存知のように地球は生きどおり星です。表面は陸地と海があります。中はまだドロドロに融けています。そのドロドロ（マグマ）がゆっくりゆっくり

と対流しているのです、その上に乗っているだけの陸地は少しづつ（年間数センチメートル）動いてひずみが溜まっていきます。ですからこの星に生きている以上、地震は避けられないのです。そして、星にも寿命があり、数十億年先には太陽も寿命が過ぎて太陽系を飲み込んでいきます。また、地球は暑すぎず寒すぎず、水が液体でいられる唯一の惑星です。私たちはこの絶妙なバランスを保つた奇跡の星に生まれた生物なのです。生きているだけで有り難い存在の私たちであるのに、それが当たり前のように暮らしている人類の思ひ上がりが、他の多くの生物の生命をおびやかす、ついには自分自身を追いつめているのではないのでしょうか。

しかし、私たちは現代社会の一員ですから、今から渡り鳥や遊牧民族のような移動生活ができるわけではありません。これからこの社会で定住し、生きていかなければならないのです。真宗門徒の私たちは、仏法を聞いて、自らを**煩惱具足の身**であると知り、だからこそ**阿弥陀如来の本願**によつてしか救われていかなない身であると深くいただいで生きることが肝要だと思ひます。

最近よく流れているACジャパン（旧公共広告機構）のCMに、以前にも紙面でご紹介した**金子みずぶさん**の『ごだまでしようか』という詩が使われています。

「遊ぼう」 っていうと

「遊ぼう」 っていう。

「ばか」 っていうと

「ばか」 っていう。

「もう遊ばない」 っていうと

「遊ばない」 っていう。

そうして、あとで

さみしくなって、

「ごめんね」 っていうと

「ごめんね」 っていう。

こだまでしようか、

いいえ、誰でも。

阿弥陀如来という仏さまは、決して悲しんでいる私に「悲しむな」「頑張れ」とは言われません。悲しみを取り除いてくださる存在でもありません。「悲しいよ」と言う私に、ただ「悲しいね」と寄り添ってくださるのです。煩惱具足の私を丸ごと受け入れてくださる存在なのです。苦しい時もつらい時も楽しい時も、いつも必ず阿弥陀さまが一緒なのです。南無阿弥陀仏と報恩感謝のお念仏を申す生活をさせていただきましよう。

「役員会が開催されました」

去る3月30日（水）に当山にて西光寺護持会の役員会が開催され、平成22年度決算・23年度予算ともに承認されましたのでご報告いたします。今後とも、西光寺の護持発展のためにお力添えを賜りますようお願いいたします。お寺はご門徒様みんなのもので、どうぞ気軽になんでもご相談ください。

「春の彼岸会が厳修されました」

去る3月21日（月）に彼岸会をとりおこないました。3年目の今年は、ご講師に勝山の伊藤貴彦師をお迎えして、静かに仏法に触れるよい時間となりました。ご自身の体験から



伊藤先生のお取り次ぎ

お取り次ぎをいただき、お参りのご門徒さんから「聞き入ってしまいました。」とのお言葉も聞かれました。皆さんようこそそのお参りでございました。

「西別院の大遠忌法要とお願い」

本願寺福井別院より、平成25年春に厳修予定の親鸞聖人750回大遠忌法要並びに本堂・門徒会館の改修工事の懇志依頼が来ております。今度の震災のたいへんな時期と重なり困惑しておりますが、無視することもできません。福井教区の大切な別院の法要ですし、建物も時間が経ち、痛みも目立っています。お気持ちで結構ですのでご協力をお願いいたします。

「編集後記」

今度の震災では、私は結局少しばかりの義援金を出させていただけただけで、他になにもできていません。もし、皆さんの中で義援金を出したいけど、お体や交通機関の関係で振り込みに行けないという方は、代行いたします。ちゃんと受領証もお持ちしますよ。お気軽にお声をかけてください。いつでもなんでもどんなことでもご相談下さい。お待ちしております。

住職 内嶋洪淳（うちじま こうじゅん）

090-8261-3090

若院 内嶋淳浩（うちじま あつひろ）

090-8967-7902

メールアドレス

soichiro4989@gmail.com